

福島いのちの電話

社会福祉法人
福島いのちの電話 広報誌
2015年春 vol.45



『蓮池のある風景』（水彩画） 福島市在住 金子廣定氏



年中無休 午前10時～午後10時

（毎月第3土曜日は午前10時から翌日午前10時まで、24時間相談を受け付けています）^{しみじみ}

ひとりぼっちで悩まずに TEL 024-536-4343

フリーダイヤル（通話料無料） 毎月10日 午前8時～翌朝8時

自殺予防いのちの電話 TEL 0120-738-556^{こころ}



死なないために、物語の言葉を

福島学院大学福祉学部大学院
臨床心理学研究科教授

香山雪彦

中高年の自殺は（病気を苦にした場合を除けば）圧倒的に男性に多いのはなぜでしょうか。それは、例えば（50年も昔のことですが）男の象徴のような三船敏郎という有名な俳優が出てきて「男は黙って**ビール」とビールビンをどんとテーブルに置くコマーシャルがあった、もうちょっと最近にも（といっても30年前ですが）やはり男のあこがれである高倉健が出てきてボソッと一言「不器用ですから…」と言う、そんなコマーシャルに象徴されるように、男は昔からべらべらしゃべらないものだとして刷り込まれてしまっていて、自分の苦しさを誰にも伝えられずに、黙って死を選ぶしかなくなるからです。

一方、女性はだいたいにおいておしゃべりで、友達と1時間でも2時間でもしゃべり続け、そこで「そう、そうだよな」と感情を共有してもらえるから、死なずにすむのです。

しかし、感情の共有よりももっと強く生きていく力になり得るのは物語の共有です。物語の共有とはどういうことでしょうか。例えば2005年に公開された「Always 三丁目の夕日」という昭和30年代を描いた映画にあった場面ですが、売れない小説家が飲み屋の女の人に惚れて、想いを伝えるのに指輪を贈ろうとします。しかしお金がないから、指輪の箱だけ贈ります。「小説が売れたら中身を贈るから」という意味です。その女の人は開けて中身がないのを見て箱を返し、手を差し出して「その指輪をはめてよ」と言います。そこで男は（本当はない）指輪をつまみ上げて、その指に指輪をはめてやる（ふりをする）、そうすると女の人はその仮想の指輪を電気にかざして「まあ、きれい」と言うのです。その二人には間違いなく一つの物語が共有されました。

そのように物語を共有してくれる人がいた

ら、人は生きていきます。感情の共有でもいいけれど、できたら物語を共有する人がほしい。それには、指輪の箱などに込めた思いは受け取ってもらえるとは限らず、「馬鹿にしないで」と突き返されるのが落ちでしょうから、ふつうは言葉が必要です。しかし、その言葉というのは「うざい」など、自分の気分を吐き出すための言葉ではだめで、自分の心の中にあることを、たとえそれは切れ切れの思いでも、それをつなぎ合わせて物語として話さなければなりません。

しかし、心に苦しさを抱えている人たちにとっては、その物語は生きてきた中で傷ついてきた歴史ですから、自分で記憶から消しているかもしれないし、記憶にはあっても思い出されるたびにつらくなるからとても話せないことが多いでしょう。けど、言葉にして話さないと、苦しいことは伝わっても、なぜ苦しいのか、その苦しみの正体は何であり、なぜそんな苦しさをかかえることになったのかは絶対に伝わりません。親子なら、夫婦なら、彼氏・彼女なら、あるいは先生なら、「言わなくてもわかってよ」と思うかもしれませんが、それは単なる甘えで、その甘えは、親しい人間関係を壊すことになるだけです。なぜそんなに苦しいのかは、物語の言葉にして伝えないと絶対に伝わらないのです。

そうだとしたら、そんなことをどうしたら話してもらえるようになるのでしょうか。それには、この人には話しても大丈夫だという安心できる人間関係が必要です。人間関係が希薄になっているこの時代だからこそ、正直な話のできる関係を大切にしたいと思います。

いのちの電話はそのような人間関係を持てないでいる人たちの最後のきずなとしての役目を持っていると思います。しかし、できたらそのきずなを利用しなくてすむように、家族がそうになってくれたらと願いますし、先生や医師や心理士の人たちが（上から目線で指導するのではなく）話を聞いて受け止めて欲しいし、そして自助グループにうまくつながってもらえたらと思います。

シーアイエー株式会社

伊達市梁川町やながわ工業団地90-1
TEL 024-577-7666

- 地元伊達市を中心に地域社会にかかわる活動を続けているシーアイエー様には、福島いのちの電話でも、伊達支部の活動やチャリティーミニライブでの企画・運営などでご協力いただいています。
今回は自社紹介していただきました。

シーアイエー株式会社はブランディング、WEB制作、イベント企画、総合印刷など幅広い分野の事業を展開しています。本社は伊達市梁川町の工業団地内にあり、外観はグレーのあやしい建物ですが、一歩中に入ると総板張りのウッディな雰囲気の内装になっています。

社訓は「言いわけすんな」。社外報のタイトルにもなっています。あれこれ言いわけする前に先に進む方法を考えようという意味です。遊びに本気に取り組まないような奴にはいいアイデアは生まれない！というのが社長の口癖です。

ちょっと風変わりな会社ですが、全国の学芸員のスキルアップのための雑誌「月刊ミュゼ」を発行しています。全国の美術館や博物館などの情報を掲載した「月刊ミュゼ」は全国でも類を見ない情報誌となっています。

地元伊達市の情報を中心にローカルな話題を発信中のインターネットテレビFDNでは、地域のPRにも力を入れています。様々なイベント情報の他、伊達市のコアな情報も満載。東日本大震災の時には、社員が市内を駆け回り、ガソリンやスーパーなど日常に必要な様々な情報をリアルタイムで掲載しました。また、風評被害



▲昨年9月のチャリティーミニライブのひとコマ

払拭をキーワードに、地元伊達市を中心とした「本当に安心安全」な情報も発信してきました。

昨年12月には、「NPO法人 アンコールワット日本文化交流会」の社内報を長年にわたり無料で印刷したことにより、「NPO法人 アンコールワット日本文化交流会」の「公益財団法人 社会貢献支援財団」から社会貢献者として表彰されました。これはカンボジア市民を対象とした日本語教育の普及や国際協力活動などを紹介する新聞で、当社では今後もその活動を応援していきます。

東日本大震災の際、福島県内で最大規模の避難所となったコンベンション施設「ビッグパレットふくしま」の避難者が足湯につかりながら語ったつぶやきと、暮らしぶりを捉え続けた写真集「生きている 生きてゆく ビッグパレットふくしま避難所記」も発行しています。「被災者の方々の避難所での日常を、後世に残す必要がある」という呼びかけに賛同して発行されたものです。2012年には海外の方にも知ってほしいと英訳をつけて、電子書籍としても発行しました。

現在は再生可能エネルギーの分野にも進出し昨年8月に開催した会社の納涼祭には、日産リーフの電気自動車を利用して効率的に蓄えた電気で、イベントの全ての電力をまかない、クリーンで優れた発電システムによる、再生可能エネルギーの地産地消を実現しました。



▲シーアイエーのPR誌(月刊・274号)で「いのちの電話」の活動を紹介

～それぞれの年代の危機を見つめて～

相談員養成研修の一部を一般公開しています。どなたでも受講できますので、一緒に学んでみませんか？
(1講座のみでも申し込みます。相談員になりたい方は、全5回受講してください。)

第1回 5/9 (土)	虐待とその後の人間形成 講師：村井 恭子 氏 (県中央児童相談所判定課長)
第2回 5/16 (土)	境界性パーソナリティ障害とうつ状態 講師：矢部 博興 氏 (福島県立医科大学医学部神経精神医学講座主任教授)
第3回 5/23 (土)	最近の少年非行の動向と特質～周囲の大人としてできること～ 講師：生島 浩 氏 (福島大学大学院人間発達文化研究科・学校臨床心理専攻教授)
第4回 5/30 (土)	老年期の生きがい～震災関連死の視点も含め～ 講師：志賀 令明 氏 (福島県立医科大学看護学部名誉教授)
第5回 6/6 (土)	いのちの電話の役割 講師：田中 幸治 氏 (川崎いのちの電話研修委員、福島いのちの電話研修委員)

●時間：全講座午後2時～4時

会 場／郡山市労働福祉会館
(郡山市虎丸町7番7号)
申込期間／平成27年4月1日(水)
～5月8日(金)
申込方法／申込書に必要事項を書いて
福島いのちの電話事務局ま
で郵送又はFAXで申し込ん
でください。
申込書は事務局に請求するか
ホームページからダウン
ロードできます。

受 講 料／無料

●相談員募集について第3回(5/23)
終了後(午後4時から午後4時30分
まで)、同じ会場で説明会を行います
のでご参加ください。
詳しくは事務局(下記)までお問い
合わせください。

「福島いのちの電話」はあなたのご支援を必要としています。

名 称	代表者名	電話番号
福島いのちの電話	理事長 茂田 士郎	TEL 024-536-0032 FAX 024-536-2840
★郵便振替：02140-7-16968 名義：社会福祉法人福島いのちの電話		
喜 多 方 支 部	支部長 山崎 信子	0241-23-3231
★郵便振替：02210-1-96111 名義：社会福祉法人福島いのちの電話 喜多方支部		
南 相 馬 支 部	支部長 島田 延子	0244-24-3415
★郵便振替：02290-4-61672 名義：社会福祉法人福島いのちの電話 南相馬支部		
い わ き 支 部	支部長 金子 義宏	090-7932-0067
★郵便振替：02290-7-68683 名義：社会福祉法人福島いのちの電話 いわき支部		
郡 山 支 部	支部長 田中 淑子	090-7064-5676
★郵便振替：02260-0-67349 名義：社会福祉法人福島いのちの電話 郡山支部		
伊 達 支 部	支部長 内山 清一	090-5831-4343
★郵便振替：02290-6-118372 名義：社会福祉法人福島いのちの電話 伊達支部		

※法人会員／1口1万円から
(何口でも可)
維持会員／1口2,000円か
ら(何口でも可)
賛助会員／時期、金額を問
いません。

※「福島いのちの電話」への
寄金は、税法上の優遇措置
を受けることができます。

★印は資金ボランティアの方の
お振り込み先です。詳しくは
事務局
024-536-0032までお問
い合わせ下さい。

秋季公開講座

『警戒区域～あの日わたしが見たもの～』
平成26年11月8日(土)、かしま交流センター(南
相馬市)にて講師に柳美里氏を招き開催し、約80
名が受講しました。
(福島いのち
の電話、福島
いのちの電話
南相馬支部主
催)



いのちの大切さを考えるフォーラム

平成26年11月9日(日)、ウエディングエルティ(福島市)
にて福島いのちの電話主催のフォーラムを開催しまし
た。今回は「若者の自殺」について考え、見城美枝子氏
の基調講演に続き、3人
のパネリストによる若
い世代の現状・問題点
等についてディスカッ
ションが行われました。
参加者約90名。



事業報告

編集・発行／社会福祉法人 福島いのちの電話
事務局／郵便番号960-8691 福島中央郵便局私書箱15号
TEL.024-536-0032 FAX.024-536-2840
HP / <http://www9.plala.or.jp/inochinodenwa/>

左は相談
電話では
ありません。
まちがって
かけないでね。



広報誌「福島いのちの電話」は、
春季・秋季に発行しております。
皆様のご意見・ご感想を左記まで
お寄せ下さい。

福島いのちの電話広報委員会
発行人／理事長 茂田 士郎